

特殊有機肥料
古代菌



有限会社 新東物産

「古代菌」の特徴とその効果

古代菌を使用した生ゴミの資源リサイクルによる「古代菌」は、複数種の菌の作用で、土中の微生物を増加・活発化します。これにより土壌が団粒構造となり、土の透水性と通気性が良くなって、作物の生育が促進されます。また、作物は養分の吸収とともに根毛から根酸を排出しますが、この根酸を土壌菌が食べてしまうので、根が腐敗して作物が老化するのを防ぎます。この他、土壌菌は発酵で産出される炭酸ガスや有機酸で土中の鉱物成分を溶解し、作物にミネラル成分を賦与する働きをしています。こうした土壌で育つ作物は、本来持っている機能を回復し、自分の身を守るために病気や害虫等を殺したり寄せ付けない芳香性物質（フィトン・チッド）を発散させるようになるため、農薬に頼らない生産が実現します。

畜産・水産においても、「古代菌」の使用により、腸内細菌が安定し消化吸収力が高まるので、育成率が向上し、事故率（死亡率）は低下します。畜産においては堆肥化の促進、水産ではヘドロの浄化作用による水質汚染の防止にもつながっております。

最大の特徴は、自然から生まれたものを自然に帰すという循環型のシステムがしっかりと確立しているため、農産物や畜産・水産物、そして使用する農家の皆様にとって「安全である」ということです。また製品は高速発酵・乾燥し、水分率15%以下の粗粉状の生成物ですので、長期保存が可能であり、べたついたり悪臭を発することはありません。常に安定状態のために、そのまま飼料・肥料の原料として利用でき、しかも他との配合が非常に容易です。

<農産物>

- 作物が無病で育ち、収穫が増える。
- 古代菌の発酵効果で地温が上がり、冷害に強い。
- 栄養価が高く、安全で美味しい作物が収穫できる。
- サクランゴやその他の果樹類の実がしっかりとする。
- 玉のび、色、つや、甘味、酸味、香りが出る。
- 花が大きく色鮮やかで、長持ちする。

<畜産・水産物>

- 腸内細菌を安定させ、消化吸収を向上させる。
- 病気に対する抵抗力がつくために、育成率が向上する。
- 畜産は堆肥化の促進、水産はヘドロの浄化作用が促進される。
- ヘットや動物の悪臭が無くなる。
- 赤虫やミジンコがたくさん出る。

＝実践報告例＝

リンゴ等果樹類栽培における古代菌施用の効果

<樹木に対する効果>

- 花芽の肥大が顕著
- 樹勢が衰えず、紅葉が通常より約15日位遅く、落葉も遅い。
- 5～10年のワイ化リンゴで140～150個収穫の実績（通常60～70個）
- 糖度が高く、適度な酸味があり、日持ちが良い。
- 冷夏、日照不足でも薬剤の散布回数が例年より少なく済んだ。
- 難病（モンパ病・黒点病・その他）を快復し実を付けた。

<栽培者のメリット>

- 農薬の使用を極端に減らすことができ、作業者の安全性が高まる。
- 農産物のコスト、品質、特に安全面で他製品との競争に優位。
- 地域全体で取り組むことで、特産物化等、地域活性化と活発な人的交流が図れる。

土壌改良剤としての古代菌の使用量と使用方法

標準使用方法ならびに標準使用量は以下に示す通りです。但し、土壌条件等により、使用量が多少増減することにもありますので、事前にご相談下さい。

●畑作 坪当り 5～10kg

古代菌を入れて耕し、65%程度の水分を与え、10日～20日位おいてから種や苗を植えて下さい。その際、石灰は絶対に使用しないで下さい。

すでに植えてある場合は手で一握み程度の量を、根本から離れた場所に施して65%程度の水分を与えて下さい。

●稲作 反当り 350～600kg

春に使用する場合は耕耘の際、古代菌を施して下さい。その後追肥の必要はありません。

収穫後に使用する際は上記の割合よりも多めに使用して下さい。地力を回復するとともに、稲の切が株が微生物の作用で素早く分解され土に戻ります。

●果樹 成木 1本当り 30kg (古い木ほど多めに使用)

若木 1本当り 10～15kg

細木 2本につき 15～20kg

定植されている木には、樹木の周囲に（枝が伸びた先が目安）の土に円を描くように施肥するか、根を傷つけないようところどころに穴を掘って古代菌を入れ、水分を50～65%位かけて下さい。

新たに植樹する場合は、あらかじめ土に入れて耕し、10～20日位おいてから植えて下さい。

●茶畑・花 土に対して 5%

古代菌を土に混ぜ、10～20日位おいてから種や苗を植えて下さい。

その際に、石灰は絶対に使用しないで下さい。鉢物の植え替えにもこの要領で土作りをして下さい。

すでに植えてある場合は根元から離し、（鉢物は鉢のふちに）、スプーン1杯位を軽く撒き、水分を50～60%位撒いてください。

●土壌が痩せ地の場合 坪当り 15～25kg

●ねこぶ、連作障害 坪当り 20～35kg

<その他>

- 堆肥化促進剤として

水分調整（含水率約65%位）のできた堆肥に対し、古代菌約3～5%をよく混合し、1週間以内に一度繰り返し、その後2週間に一度繰り返しを行います。約2～3ヶ月で腐熟の進んだ良質な堆肥が出来上がります。但し、繰り返しの時に水分が不足している場合は、水分を加えて調整（約65%の含水率を維持）して下さい。

- 腐熟促進剤として

稲ワラやもみ殻等の腐熟を促進する場合は、反当り乾燥ケイフン（他のチツソ源でもよい）100kgに対し、15～25kgの古代菌を使用・散布あるいは混合し、冬期間に充分腐熟の進んだ堆肥を作して下さい。

- 有機物分解促進剤として

有機物分解促進剤としての特長は、70℃以上の温度が持続的にかかることと、寒冷地での分解促進が可能なことです。

飼料添加剤としての古代菌の使用量と使用方法

標準使用量は飼料に対して3～10%を目安に、混ぜ合わせて与えてください。飼育品目、飼育状況によって配合比率を変えて与えることも可能です。

飼育品目別配合比率（例）

- 養 鶏 2～6%以下

- 養 豚 3～5%以下

- 養殖魚 2～5%
鯉、虹鱒、鮎、トラフグ、鯛、ハマチ、車えび等

- ペット類 2～3%
犬、猫等

取扱上の注意

古代菌は水分を与えると発酵するの事が特長です。したがって、ご使用の際は以下の事に留意してください。

- 保存時は水漏れしないようにご注意ください。特に開封後は水が入れないようにし、なるべく早めにご使用下さい。
- 土壌改良材、堆肥化促進剤等としてご利用の場合は、混ぜ合わせた後、水分の補給・維持（含水率50～65%）を行ってください。
- 土作りの際はあらかじめ古代菌を混ぜ発酵をさせます。この時、土の温度が上がりますので、必ず10～20日置いてから種や苗を植えて下さい。
- 定植されている状態では、発酵による温度上昇で根を痛めることの無いよう根元から離れた場所に施してください。